

# 牛久：学校周辺に見る自然

第6号 みずべ公園

2016年7月11日発行

## ＜初夏のみずべ公園・生きもの観察 ～④植物に集まる虫たち - ハルジオン＞

こんにちは。5/12 ひたち野うしく小4年生と歩いたみずべ公園、今回はハルジオンと虫たちです。



これも何度か紹介してきました。「学校周辺の自然」から「ハルジオン」でサイト内検索し参考にして下さい。

さて、ハルジオンは写真から分かるようにキク科の仲間です。ヒメジオンという似た植物がありますが、どちらもヨーロッパから入ってきた帰化植物です。冬は”ロゼット”とってタンポポのように地べたに葉を広げた状態ですが、春になって茎が立ち成長して花をつけるころになると、ヒメジオンではロゼットの葉が消えてしましますが、ハルジオンでは写真のように残っています。その他、花もよく見ると白い花びらのような部分(舌状花)の幅や枚数(ちが)がかなり違い、ハルジオンではつぼみの時たれ下がる傾向があります。また茎を切ってみると、ハルジオンでは中心が広く空洞(くうどう)になっていますが、ヒメジオンではすき間がありません。

← 開花時にロゼットの葉が残るハルジオン。この写真のみ 2014. 4. 23牛久二小



ハルジオンにはよくハナアブの仲間(みつ かふん)が来て、蜜や花粉をなめる。

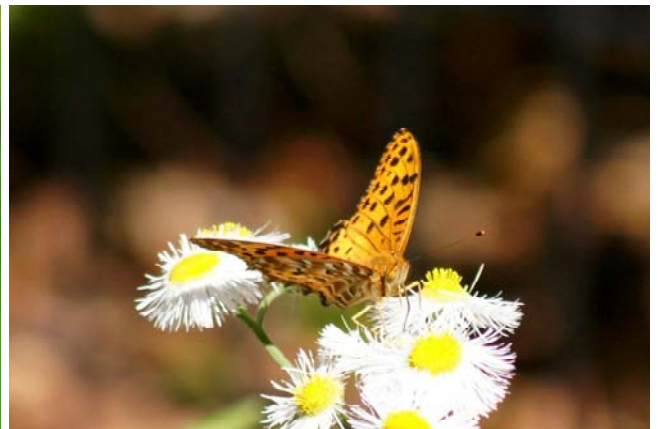
ホソヒメヒラタアブ(左上)、ナミホシヒラタアブ(右上)、ミナミヒメヒラタアブ(左下)、ホソヒラタアブ(右下)。

ハルジオンのような上向きの平たい形の花(の集まり)には、ハエやハナアブの仲間がよくやって来ます。力が弱く口先が短くても蜜まで届くためのようです。



花粉や蜜をとるツマグロキンバエ(左上)とコアオハナムグリ(右上)、ハナバチの仲間(下)。

その他には、甲虫のこうちゅうコアオハナムグリや体の小さなハナバチの仲間も多く見かけます。やはりとまりやすく口先が短くてもえさのみつ蜜や花粉に届くことがその理由でしょうか。花の色や形、向き、香りなどとそこに来る虫との関係を調べてみるのもたいへん面白いのではないかと思います。



蜜を吸うダイミョウセセリ(左上)とツマグロヒョウモン(右上)、タケノホソクロバ(下)。

チョウの仲間も長いストローをさしこみ蜜を吸っていきます。この日観察したのはダイミョウセセリ、ツマグロヒョウモン、ベニシジミとガの仲間です。タケノホソクロバ。ただしチョウは他のいろいろな種類の花も訪れるので、ハナアブなどより花粉を運ぶはたらきは小さいかもしれません。【理科支援員：宮内】